

## 平成29年度第6回文系チャレンジ講座を実施しました

第6回文系チャレンジ講座が、平成29年11月1日、本学福祉健康科学部の池永恵美先生により、「心理学ってどんなもの？」と題して行われました。

遠隔配信された竹田、国東、臼杵、大分鶴崎、大分西、三重総合、安心院、別府翔青、大分商業、高田、大分雄城台、中津南、日田の13校330名の高校生が受講しました。

池永先生はまず、毎日の生活の中で私たちが持つ様々な感情や考え方について、なぜだろう？と投げかけられました。つづいて、講義の初めとして基礎心理学（認知心理学・社会心理学・発達心理学・神経心理学等）と応用心理学（臨床心理学・教育心理学・犯罪心理学・産業心理学等）の説明や心理学とその他の学問の関連について説明がありました。

講義の柱は3つあり、1つ目の「視覚のふしぎ」では、チェッカー・シャドウ錯視などの具体例を挙げられ、生徒たちにどう見えたかを問い、「目で見た情報は真実かどうか分からない」と脳の働きと関連させながら話を進められました。2つ目の『「好き」にまつわる心理学』では、類似性と相補性といった要因のことや吊り橋効果などの作用のことを話されました。単純接触効果の説明では受講生が納得できるよう、実際に心理学的な仕掛けを施した実験を行うなど、興味をかき立てるアプローチをされていたりしました。3つ目の「考え方のクセに気づく」では実際の生活で起こりうる事例を挙げて、どのような考え方をすれば目の前の問題にうまく対応できるかといった話をされました。



講生たちでしたが、池永先生の講義をうけてその関心の度合いをより強くした様子がスクリーンを通して伝わってきました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」(99%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(99%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」(96%)という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」(99%)、「映像はよく見えた」(98%)という結果が出ました。受講生からは「心理学がとても身近なものだということがわかりました」「自分や相手の気持ちや行動を考える良いきっかけになりました」「一つの事物をいろいろな角度から見るのが大切だと感じました」「いままで知らなかった学問分野でしたが、一気に興味が沸きました」「人それぞれの認知の仕方があり、感じ方もそれぞれだということが分かってよかったです」といった感想が寄せられました。

